

2022 年度光産業技術標準化会総会



会場風景

2022 年度光産業技術標準化会総会を、2022 年 6 月 2 日（木）、東京一ツ橋の如水会館にて、45 名の参加者の下、開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により 2020 年度、2021 年度はオンライン開催を余儀なくされたが、3 月にまん延防止等重点措置が解除されたことを受けて本年度は 3 年ぶりに対面での開催となった。



小谷泰久 専務理事



経済産業省 柳澤智也 課長



東芝 石井秀明 執行役上席常務

当協会副理事長・専務理事 小谷泰久の主催者挨拶の後、標準化総会に先立ち、来賓の経済産業省 産業技術環境局 国際電気標準課課長の柳澤智也氏より、「国際標準化政策の動向」と題した講演をいただいた。

柳澤氏の講演では、まず日本経済の現状をレビューしたうえで、厳しい競争環境下でグローバル市場を獲得していくためにはルールを作る側に立ち、日本の強みを活かせる市場ルールを作っていくことが不可欠であること、そのための第一歩として、経営戦略・研究開発戦略に市場におけるルール形成を意識した知的財産戦略・標準化戦略を組込むことが必要であることを述べた。次に、国際標準をめぐる主要国の動きをふまえたうえで、日本の標準戦略として、「標準の戦略的な活用」に係る体制整備を行うことを示した。標準化政策の方向性や今後の在り方の論点としては、経営層に標準化戦略の重要性を認識してもらうことや、投資家向けの企業からの情報発信の在り方、といった企業のルール形成力強化の取り組みや、経営戦略上で標準化を考えていける人を育成するための研修プログラムの開発、といった標準化の戦略的活用を担う人材育成の在り方などを挙げた。

経済産業省 柳澤課長の講演の後、総会の議長として、株式会社 東芝 執行役上席常務の石井秀明氏が選出され、石井議長のもとで、2021 年度光産業技術標準化会事業報告および 2022 年度事業計画の審議が行わ

れ、異議なく承認された。



赤津洋介氏

休憩をはさみ、当協会の自動車・モビリティフォニクス研究会幹事の赤津洋介氏より、「自動運転に関する国際標準化動向」と題する特別講演をいただいた。赤津氏は、自身のISO/TC 204/WG 14（走行制御分科会）における国際コンビナー等に携わった経験を踏まえ、ビジネスツールとしての標準の活用という切り口で多くの事例を交えて解説された。

WTO/TBT 協定加盟国が 150 か国以上という世界においては国際規格を取得していないと貿易ができないという状況にあって、標準化活動の実行にあたっては、ISO、IEC、ITU-T のなかでどの国際標準化機関で標準化を行うと日本が主導権をとれるのかをよく吟味すること、また、標準化の推進者は技術とマネジメント／交渉力の両方を備えた人材が必要である

と説いた。さらに、標準化することを目的としてはならない、ビジネスをどう展開するかが目的でそのために標準化がどのように活用できるか手段として考えないといけない、というメッセージで締めくくられた。講演は、総会出席者の多くを占める光通信技術者にとってもビジネスを展開する企業経営者にとっても参考になる非常に有意義な内容であり、大きな拍手とともに 2022 年度光産業技術標準化会総会は終了した。